

ARCH

SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

00

2024.02

済生会新潟県中央基幹病院

〔 新しい県央地域医療 のスタートに向けて 〕

県央地域だけでなく新潟県、そして日本の地域医療のモデルを目指している県央基幹病院。特筆すべきポイントや、重視する取り組みを教えてください。

【遠藤】県央地域の逼迫した医療に対応するために、医療再編を行うことが第一にあります。その柱として、経営母体が異なる県立燕労災病院と厚生連三条総合病院が統合し、新しい病院、組織を創ることは特筆すべきポイントです。

【岩渕】そうですね。県央地域でそれぞれがんばってきた病院が、経営母体の違いという壁を乗り越えて「地域全体で一つの病院になる」ことが、新しい地域医療のモデルになるのではないかと思います。

【遠藤】特に重要と考えている取り組みは、逼迫している救急医療と高齢者医療です。加えて、若い医師や医療スタッフの人材育成に重点を置き、職員にとつて働きやすい環境作りを目指します。さらに、この地域の特徴でもある「ものづくり企業」など産業界との医工連携も進めていきたいと考えています。

【岩渕】県立吉田病院、県立加茂病院、済生会三条病院の三病院も形を変え、地域密着型病院として四月からスタートします。今後は各病院の役割分担を明確にして、お互いに信頼し合いながら連携していくことが重要だと思います。

どのような人材を必要としているのか、また、未来の医療を支える人材の育成、教育についての展望を教えてください。

【遠藤】新しい病院づくりに賛同し、熱意を持って取り組む、あるいは挑戦する気持ちを持って取り組める人材を求めています。当院では幅広い領域、職種の方々と連携していきますので、いろいろな方とコミュニケーションがとれることも大事ですね。

【岩渕】自分がどういう役割を持っているのかを認識し、それを実行できる人材が必要ではないかと思っています。

【遠藤】現在は医師七〇名、看護師四三〇名、医療スタッフ一七〇名と、開院に必要な人数は確保できました。ただ今後を考えれば人材を集めるだけでなく、同時に将来の医療を担う次の世代を育成していくことも、当院が自ら行っていくべきではないでしょうか。そういう観点から研修や実習、指導などに力を入れた、次世代の教育を重点項目の一つにしています。

開院に向けての抱負をお聞かせください。

【遠藤】今は身の引き締まる思いです。「県央地域の急性期医療を担う拠点にする」と発信してきており、その責務をしっかりと果たしていこうと肝に銘じています。最初から一〇〇%のことはできないかもしれませんが、少しでも近づけるように努めます。

【岩渕】明るく、前向きに進んでいきたいですね。安定した医療を提供するためにもスタッフが働きやすい病院、夢を持てる病院にしたいです。また、当院ならではの特徴や得意な分野を見つけていくことも大切ではないでしょうか。地域の医療環境が変化して住民のみなさんには戸惑いもあるかもしれませんが、子どもたちをはじめ、これからの県央に住むみなさんが安心して生活できるように、良い病院を目指したいと思っています。

済生会新潟県央基幹病院 病院長
新潟県立燕労災病院 病院長

遠藤 直人

プロフィール ENDO NAOTO

■日本整形外科学会:整形外科専門医 ■日本整形外科学会:運動器リハビリテーション医
■日本リハビリテーション医学会:認定臨床医 ■日本骨粗鬆症学会認定医

済生会新潟県央基幹病院 統括副院長
JA新潟厚生連三条総合病院 病院長

岩渕 洋一

プロフィール IWAFUCHI YOICHI

■日本内科学会:認定内科医・総合内科専門医 ■日本腎臓学会:腎臓専門医・指導医
■日本透析医学会:透析専門医・指導医 ■厚労省認定臨床研修指導医
■日本医師会認定産業医

対 談

包み込む空間性

不安を感じつつ病院を訪れる方々を優しく受け入れるような、ゆとりのある空間設計となっています。病室ベッド上部の切り替えなど、安心感を与える素材と色彩で、包み込まれた空間を創り出しました。



・病室



・外来プラザ



弥彦山の杉林

・杉格子とエスカレーター

身近な素材感

県産の木材や安田瓦など、新潟県民の生活に馴染み深い素材を取り入れることで、病院の緊張感を感じさせないような、心安らぐ空間を演出しました。



安田瓦

弥彦神社の石畳

・エントランスホール



・多目的ホール



・スタッフステーション



・救急外来



・手術室



・ICU



・外来窓口



・病棟テラス



・外来プラザ吹き抜け

柔らかく導く光

動線の起点・要となる箇所には、光の帯やアイキャッチとなる照明、アクセントカラーを使った壁やサインを配置し、光に包まれた明るく分かりやすい空間となっています。

院内写真

様々な不安を抱きながら病院に来る人々を、優しく包み込む。そんな安心感と機能性を兼ね備えた空間づくりを行いました。

職員ユニフォームのご紹介

ユニフォームの色は、職種毎によって変わります。職種毎の色分けで患者さんにとっても、医療スタッフの職種を素早く識別できるようになり、適切なサポートが受けられるようになります。職員と患者さんの双方にとって、病院全体の効率性とサービスの向上に貢献します。



併設保育園「なでしこぽかぽか保育園」が開園します

令和6年4月に仕事と子育ての両立を支援するために院内保育園が整備されます。病院勤務者だけでなく、三条市、燕市等近隣地域の一般の方のお子さんも含め、3歳年度末までのお子さんを受け入れます。「病児・病後児保育」も行い、子どもたちの身体的な健康だけでなく、心の成長や社会性の発達も大切に、バランスのとれた成長をサポートします。



定員／乳児(0～2歳)30名(従業員枠15名、地域枠15名)、病児・病後児保育9名

※バースはイメージで、実際と異なる可能性があります。

保育標準時間
(最長12時間)

【平日】午前7時～午後7時
【土曜日】午前7時～午後7時
※上記内で必要な保育時間を保育園に申請

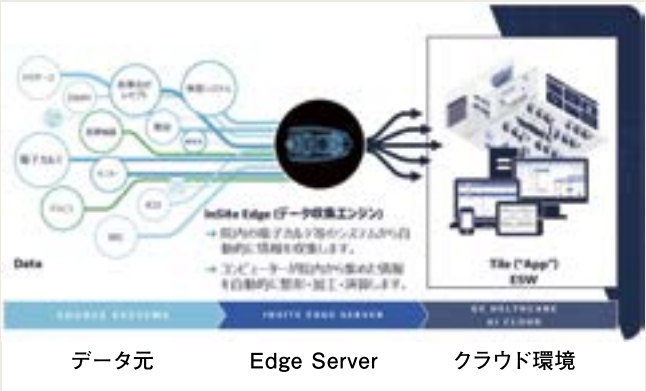
保育短時間
(最長8時間)

【平日】午前8時30分～午後4時30分
【土曜日】午前8時30分～午後12時30分

医療DXへの取り組み

県央基幹病院では医療DX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みにも重点を置いています。今回は導入システムの一部についてご紹介します。

〔GEコマンドセンター&DWH〕



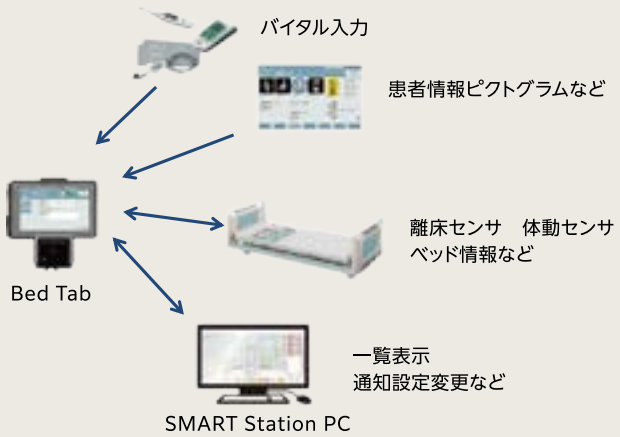
患者さんへ必要なケアをタイムリーに提供するための意思決定を促す中央集中管制塔としての役割を果たすシステムです。病床管理・入退院支援に必要となる院内データを分析・可視化し、ケア需要の予測、施設間の移動、ケアの進行、退院計画など、刻一刻と変化する患者さんの状況をタイムリーに捕捉することができます。

〔ICナビシステム〕



専用タブレットを使い、様々な情報を分かりやすく患者さんへ提供できるシステムです。治療計画や検査計画、手術の説明を、動画やアニメーションを使い説明できるので、患者さん・ご家族の理解度が高まります。

〔スマートベッドシステム〕



スマートベッドシステムは、各種情報機器(体温計、血圧計、体動センサー等)をつなぎ、リアルタイムで患者情報(睡眠・覚醒・呼吸数・心拍数)を把握できるシステムです。集約された情報は、ナースステーションのモニターで確認できます。

〔スマートフォン・インカム〕



スマートフォンIP無線アプリと専用インカムを合わせて、院内での情報交換手段として使用します。リアルタイムで1対複数の通話が可能になり、スタッフは仕事でもハンズフリーでコミュニケーションを取ることができます。情報共有によりスタッフ同士の連携が強化され、患者さんへのサービス向上と労働環境の改善に貢献します。



社会福祉法人

恩賜
財団

済生会新潟県央基幹病院

〒955-0091 新潟県三条市上須頃5001番地1

TEL.0256-47-4700 FAX.0256-33-8808

<https://www.kenoh.saiseikai.or.jp/>

病院のサイトには
右記QRより
アクセスしてください

